クラス	Q107	担当教員	堀　美和子
テーマ	発達障害児の理解と支援　ー発達臨床心理学の視点からー		
著書･論文 研究課題等	＜著書・論文＞ 「高機能広汎性発達障害児へのアプローチ」　『21 世紀の心理臨床』 ナカニシヤ出版，　2003 「保育園や幼稚園での様子から気になった場合に保育園の中で気をつけること」　『可能性ある子どもたちの医学と心理学』ブレーン出版，　2002 「自閉症児の“こころ”をはぐくむー初期の関係性の発達への心理臨床的アプローチー」『いのちと向き合うこと・こころを感じること」　ナカニシヤ出版　2013　など 「＜研究課題＞　高機能広汎性発達障害児の発達援助に関する研究・子どもの心理療法課程の検討　など		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：自閉症スペクトラム・ADHD・発達支援・発達臨床心理

目的と内容：

主に幼児期から学童期(児童期)の発達障害児に焦点を当てて、自閉症スペクトラム障害やＡＤＨＤなど**発達障害を持つ子ども達の理解と支援について，学習・実践・研究を通して検討していく。**もちろん、子どもの生涯発達の観点から青年期や成人期について検討することも含まれる。対象とするのは主に知的障害を伴わない発達障害児であるが、学習や実践においてはその限りではない。**ゼミ生の一人一人が発達障害についての実践的な知識をもとに、子どもたちが地域・家庭・学校で自分らしく生きていくために必要な支援を具体的に考えることができるようになることを目的とする。**

現在、教育分野にとどまらず臨床心理学の各分野でも発達障害に関する理解が必須となっている。そのためゼミでは、**発達臨床“心理学”的な視点から**子どもを理解するちからを養ってほしいと考えている。

授業計画：

前期は文献（メンバーの既得知識や興味によって文献を決めます）を用いて発達障害についての基礎的知識の学習を行い、後期には支援の現場で発達障害の子どもとかかわる活動を行う。(2013 年度までは半田市内の小学校にてゼミ実習として実施した。2014 年度は左記実習を中心に関係諸機関と調整中のため**変更する場合もある**)ゼミ内でそれらの関わり体験を共有しながら子どもの“困り感”や支援者に必要とされることなどについて具体的に検討していく。その他、ゼミメンバーで相談しながらグループワークの実施やアセスメントの方法や活用の仕方の検討、発達障害関連機関の見学、ゲスト講師による講義や実践活動報告などについても検討していく予定である。

また、3 年生は関連論文を積極的に読みながら自分自身の問題意識を固め 4 年次の**卒業論文執筆**に向けての準備を行うことも求められている。随時、レポートやまとめを行い、ゼミ生相互でそれらについて検討していく。

担当教員からのメッセージ

堀ゼミのメンバーとなるなら…

求める基本的態度：

・自分から提案し動き考えることができること！
・“ことば”その他で相手に自分を表現することを惜しまないこと！
・ひとからのメッセージを真摯に受け止める努力をすること！
・先生に“教えてもらう”のではなく自分で“まなぶ”！

知っていてほしいこと：

・発達障害を理解し支援を考えたいと思っているならば将来の進路希望は**全く関係ありません**！様々な視点から検討したいので、多様な関心を持った学生さんを募集します。(ちなみに堀は教員免許も持っていませんし、特別支援教育の専門家でもありません。心理学の立場から子どもの支援に取組んでいます)
・ゼミの時間だけではなく、それ以外の時間に行う活動が重要。文章を書くことや、文献を読むこともどんどん求めますのでそのつもりで。
・卒業論文は書くこと前提です。